

実験動物の技術と応用 実践編 増刷（第五刷）にあたっての修正点

修正箇所	修正前（第四刷まで）	修正後（第五刷）
p. 70 「2. 性周期とその内分泌機能」の項、3 及び 5 行目	… <u>夾</u> 膜細胞…	… <u>莢</u> 膜細胞…
p. 71 「3. 性ホルモンの化学-コレステロールからエストロジェンへ-」の項、下から 3 及び 2 行目	… <u>夾</u> 膜細胞…	… <u>莢</u> 膜細胞…
p. 124 右欄、「突沸」の欄、2 及び 3 行目	… <u>加</u> 熱状態…	… <u>過</u> 熱状態…
p. 143 右欄、「免疫の種類」の欄、③	③自然受動免疫:母体からの移行抗体	③自然受動免疫:母体からの移行抗体による免疫

実験動物の技術と応用 実践編（第五刷）の正誤表

下記の通り、誤記がありましたので訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
p. 61 「2. 作出目的」の項、10～13 行目	<u>1980 年に入ると John Gordon がマウスにラットの成長ホルモン遺伝子 DNA を導入し、体重が 1.5 倍のジャイアントマウスを作製した。これがトランスジェニックマウスの初めての例であり、この後、現在に至るまでに多数作製されてきている。</u>	<u>1980 年に入ると外来遺伝子 DNA を受精卵の前核に注入して染色体に組み込んだトランスジェニックマウスが作製されるようになった。なお、1982 年に R.L. Brinster らによって作製された、ラットの成長ホルモン遺伝子 DNA を導入し、体重が 1.5 倍のジャイアントマウスは、世界に大きなインパクトを与えた。</u>
p. 68 「3. 精子形成」の項、5～7 行目	<u>このような細胞の分化と変態は連続的に行われ、精祖細胞から有糸分裂による 1 回の成熟分裂と、第一次精母細胞から第二次精母細胞を経て精子細胞までの 1 回の減数分裂があり、…</u>	<u>このような細胞の分化と変態は連続的に行われ、精祖細胞から体細胞分裂により第一次精母細胞ができ、第二次精母細胞を経て精子細胞となるまでの間に 1 回の減数分裂があり、…</u>
p. 70 右欄、図 4-6 中の用語及び p. 71 右欄、図 4-8 中の用語	<u>夾</u> 膜細胞	<u>莢</u> 膜細胞

p. 109 「1) 遺伝子組換え動物の飼育施設:」の項、8行目	「～には「組換え動物飼育中」と表示～」	「～には「組換え動物等飼育中」と表示～」
p. 139 表 8-10 「人獣共通感染症の動物群別重要度分類」の欄外		「「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正があることから、最新の分類情報は、厚生労働省 Web サイト内「動物由来感染症」 (http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index.html)を参照されたい。」を追記
p. 154 「3. 外科用器具・器材」の項、19行目	(1) ピナセット (摂子)	(1) ピナセット (鑷子)
p. 193 「2. 全身麻酔と局所麻酔、(1) 全身麻酔」の項、2行目	～あるが、 <u>速効性のある</u> ～	～あるが、 <u>即効性のある</u> ～
p. 193 右欄、「麻酔薬の投与経路とその略称」の欄、「皮下投与」の項	… <u>速効性</u> は…	… <u>即効性</u> は…
p. 230 「(13) KK、2) 系統の特徴」の項 2～3 行目	… <u>頸肋が 66%にみられる。仙骨数は 25 が優性である。</u> リッターサイズが…	(下線部削除) …頸肋が 66%にみられる。リッターサイズが…
p. 235 「4) 胸腔内臓器の摘出」の項、9行目	⑤ <u>甲状腺: 気管上部に輪状に付着する赤褐色の内分泌器官である。</u>	(削除、胸腔内臓器ではないため、p. 234、「2) 体腔外臓器の摘出」の項に、④として同説明文を追記する。)
p. 246 右欄、表 1-9 の欄外説明文	繰り返しの採血を行う場合、2週間で全血液量の <u>1%</u> あるいは 8ml/kg 以内が望ましい。	繰り返しの採血を行う場合、2週間で全血液量の <u>10%</u> あるいは 8ml/kg 以内が望ましい。
p. 260 「5. 寄生虫病、(2) ダニ類」の項、1～2行目	…イエネズミラドフォード <u>ケチモダニ</u> …	…イエネズミラドフォード <u>ケモチダニ</u> …
p. 341 「4. 感染性疾患」の項、1行目	ブタには 11 種類の家畜法定伝染病と <u>14 種類</u> の家畜届出伝染病がある。	ブタには 11 種類の家畜伝染病と <u>16 種類</u> の届出伝染病がある。

p. 341 「4. 感染性疾患」の 項、4～5 行目	…細菌性疾患では豚丹毒（ <u>法 定</u> ）、豚赤痢（ <u>届出</u> ）、萎縮性 鼻炎、…	…細菌性疾患では豚丹毒（ <u>届 出</u> ）、豚赤痢（ <u>届出</u> ）、萎縮性 鼻炎（ <u>届出</u> ）、…
p. 344 右欄、「日本にサル類 を持ち込める地域（輸 入許可国）」の欄	①～⑦	「⑧カンボジア王国」を追記
p. 344 右欄、「サル類の輸入 可能地域における条件 （農林水産大臣の定め る基準 1999）の欄		（削除）
p. 369 右欄、「雌核発生」の 欄、2 行目	… <u>2n</u> =150 の卵を…	… <u>3n</u> =150 の卵を…

加えて、p. 341、8-5 を下記の通り訂正します。
(訂正前)

表 8-5 ブタのおもな感染症

病名	外見所見	病原体	予防・治療
豚丹毒 (法)	急性：皮膚チアノーゼ、敗血症 亜急性：じんましん 慢性：心内膜炎、関節炎	<i>Erysipelothrix rhusiopathiae</i>	ワクチン (30~50 日 子ブタ)
萎縮性鼻炎 (AR) (届)	鼻や顔面の変形、発育不良	<i>Bordetella bronchiseptica</i>	母豚用ワクチン
豚赤痢 (届)	粘血下痢	<i>Serpulina hyodysenteriae</i>	抗生物質
豚流行性下痢 (届)	水溶性下痢 (冬季が多い)	Porcine epidemic diarrhea virus	母豚用ワクチン
大腸菌病	哺乳子ブタの下痢、敗血症 子ブタ：下痢、浮腫病	<i>Escherichia coli</i>	ワクチン 抗生物質
胸膜肺炎 (APP)	肺炎、胸水	<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i>	ワクチン
滲出性皮膚炎	皮膚炎、スス病	<i>Staphylococcus hyicus</i>	
グレーサー病	耳・鼻にチアノーゼ、神経症状	<i>Hemophilus para</i>	ワクチン
日本脳炎 (法)	妊娠豚の死産 (人獣共通感染症)	Japanese encephalitis virus	母豚用ワクチン
豚伝染性胃腸炎 (TGE) (届)	水溶性下痢、嘔吐 (幼齢ほど致死率高い)	Swine transmissible gastroenteritis virus	母豚用ワクチン
オーエスキー病 (届)	神経症状 (幼齢ほど致死率高い)	Suid Herpesvirus 1	母豚用ワクチン
豚パルボウイルス感染症	妊娠豚の死産	Porcine parvovirus	ワクチン
豚繁殖・呼吸障害症候群 (届)	激しい複式呼吸、ヘコヘコ病	Porcine reproductive and respiratory syndrome	ワクチン
流行性肺炎 (SEP)	咳、肺炎、発育不良	<i>Mycoplasma hyopneumoniae</i>	
トキソプラズマ病 (届)	リンパ節の腫大、出血 (人獣共通感染症)	<i>Toxoplasma gondii</i>	ネコの侵入防止
豚肺虫症	咳、肺炎 (肺気腫)	<i>Metastrongylus apye</i>	駆虫剤
豚カイセン症 (ヒゼンダニ)	皮膚のかゆみ、丘疹、水痘	<i>Sarcoptes scabiei</i>	駆虫剤
口蹄疫 (法)	発熱、流涎、口、蹄等に水泡	Picornaviridae Aphthovirus	

(法) 家畜法定伝染病、(届) 家畜届出伝染病

「実験動物の基礎と技術 技術編」、(社) 日本実験動物協会編、p. 187、丸善、1991 年

(訂正後)

表 8-5 ブタのおもな感染症

病名	外見所見	病原体	予防・治療
豚丹毒 (届)	急性：皮膚チアノーゼ、敗血症 亜急性：じんましん 慢性：心内膜炎、関節炎	<i>Erysipelothrix rhusiopathiae</i>	ワクチン (30~50日 子ブタ)
萎縮性鼻炎 (AR) (届)	鼻や顔面の変形、発育不良	<i>Bordetella bronchiseptica</i>	母豚用ワクチン
豚赤痢 (届)	粘血下痢	<i>Serpulina hyodysenteriae</i>	抗生物質
豚流行性下痢 (届)	水溶性下痢 (冬季が多い)	Porcine epidemic diarrhea virus	母豚用ワクチン
大腸菌病	哺乳子ブタの下痢、敗血症 子ブタ：下痢、浮腫病	<i>Escherichia coli</i>	ワクチン 抗生物質
胸膜肺炎 (APP)	肺炎、胸水	<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i>	ワクチン
滲出性皮膚炎	皮膚炎、スス病	<i>Staphylococcus hyicus</i>	
グレーサー病	耳・鼻にチアノーゼ、神経症状	<i>Hemophilus para</i>	ワクチン
流行性脳炎 (法)	妊娠豚の死流産 (人獣共通感染症)	Japanese encephalitis virus	母豚用ワクチン
伝染性胃腸炎 (TGE) (届)	水溶性下痢、嘔吐 (幼齢ほど致死率高い)	Swine transmissible gastroenteritis virus	母豚用ワクチン
オーエスキー病 (届)	神経症状 (幼齢ほど致死率高い)	Suid Herpesvirus 1	母豚用ワクチン
豚パルボウイルス感染症	妊娠豚の死流産	Porcine parvovirus	ワクチン
豚繁殖・呼吸障害症候群 (届)	激しい複式呼吸、ヘコヘコ病	Porcine reproductive and respiratory syndrome	ワクチン
流行性肺炎 (SEP)	咳、肺炎、発育不良	<i>Mycoplasma hyopneumoniae</i>	
トキソプラズマ病 (届)	リンパ節の腫大、出血 (人獣共通感染症)	<i>Toxoplasma gondii</i>	ネコの侵入防止
豚肺虫症	咳、肺炎 (肺気腫)	<i>Metastrongylus apye</i>	駆虫剤
豚カイセン症 (ヒゼンダニ)	皮膚のかゆみ、丘疹、水痘	<i>Sarcoptes scabiei</i>	駆虫剤
口蹄疫 (法)	発熱、流涎、口、蹄等に水泡	Picornaviridae Aphthovirus	

(法) 家畜 (法定) 伝染病、(届) 届出伝染病

「実験動物の基礎と技術 技術編」、(社) 日本実験動物協会編、p. 187、丸善、1991年 (一部改編)